□鈴木三男,田川裕美(訳): ポーラ・ルダル:植物解剖学入門 197 pp. 1997.八坂書房. ¥2,600 (税別).

邦題は"植物"解剖学となっているが、原 著の標題 Anatomy of Flowering Plants からう かがえるように、実際は被子植物の解剖を扱 った本である. その点ではシダ類や裸子植物 などの多様な形態を知ることはできないが, これから実態を学ぼうとするものにとっては 手軽な入門書である.とはいえ,電子顕微鏡 写真を含めた豊富な図版は現役の植物学者に とっても新鮮であるし、単子葉類の形態や、 さまざまな二次成長の解説など、わかりやす くためになる部分も多い. また、専門用語の ほとんどに原語が付記されており、さらに、 巻末に簡単な用語集があるのでこれ一冊で形 態学の基本用語はかなり身につけることがで きる. 好感の持てるコンパクトさは、しかし、 多くの点を割愛する必要に迫られる. 本書で はできあがった形態を中心に解説しているの で、発生と形態形成という点ではほとんど見 るところがない、致し方のないことである.

カバーの折り返しにある「本書の特色」には、通常の植物関連の学問分野以外に、薬学、 考古学、美術デザイン分野まで役に立つというお奨めが載っている。研究者の減少で、大 学で形態学を学ぶことが難しくなりつつあるが、逆にさまざまな分野で形態に興味を持つ 人は増えているかもしれない. そうした人たちも含めて, 手軽な入門書である本書は便利であろう. 初版では「並層分裂」が「平層分裂」となっている. 訳者はその道のプロであるので, 善意に解釈すると, ワープロ原稿の段階でこうなった可能性がある. 紹介者もかつて「珠孔」を「珠口」としていてあわてたことがある. 時代の罠であろうか.

(西田治文)

☐ Hickey M. and King C.: Common Families of Flowering Plants 212pp. 1997. Cambridge University Press, Cambridge. £ 14.95 (paperback); £ 40.00 (hardback)

本書は2部構成になっている. 最初の部分 では、植物の形態についての教科書的な記述 がなされている. 形態を説明するのに多くの 図がつかわれており非常にわかりやすい. 植 物な形態は小中学校で習ったおぼえはあるが. その後きちんとした教育を受けていない人が ほとんどであると思う. 植物分類学や植物形 態学を専攻する人には少し物足りない部分も あるが、ひととおり植物の形態を理解するに は十分である。第二部は、食用、薬用、鑑賞 用等経済的に重要でかつまた生態学的にも注 目される25の科を選んで、それらについて、 分布, 科の形態学的特徴, 有用性, 分類体系 が示されている. 分類体系は一般的なものを 使用しているが、誰のシステムかハッキリさ せたほうが良いと思う. それぞれの科は. 1 ないし数種の代表的な種を取り上げ分布や形 態が記載されている. ここでも解剖図を中心 にふんだんに図が用いられており, 各図ごと にテキストで丁寧な説明がなされている. た だし、図に直接用語がつけられていないもの が多く,植物形態学の知識をある程度もって いないとどの部分の説明をしているのか解り にくい例もある.25の科の記述のあとに文 献と用語の解説がつく. 本書は植物形態学と いうタイトルが付けられていないが、ねらい としては、植物の形態を具体例で示し、その 変化のおもしろみを感じさせることにあると 思う. (寺林 進)